



第175号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 王 宮 前 日
 編集人 会報編集委員長 長 越 忠 男
 印刷所 須 坂 新 聞 社

研修について

成田 茂

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

子どもたちが育つには、毎日接している教師が日々成長していく以外にない。そのために人間として修養し、教師として専門性を研究していかなければならない。「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と教特法でも教員の研修が義務づけられている。

合わせを行っている。職員研修旅行は、夏休み初日にオリンピック施設や信州の秘境「秋山」を訪れ、教員としての見聞を広めることができた。直接児童に関わる面では、版画美術館で版画指導の仕方、校長先生からは絵画の実技指導を受けることができた。今年度パソコンが設置されたのに伴って、パソコンの扱いや実際指導のあり方についての研修を行ったり、計画されたりしている。

研修の機会が与えられることによって自分自身が大きく成長し、子どもの指導に生かせる場面もあるが、日頃より自分の至らなさを感じ、何かを求めて生活することによって目に見えなくとも変わってくることもある。私自身、現在も教員をやっていることができるのは、あの学校のあの先生からこのことを学んだという、研修と言わなくてもいいしよにやってきた先生方の日頃の言動から学ぶことが多かったように思う。これから私自身を高めるために研修に励みたいものである。(高甫小)

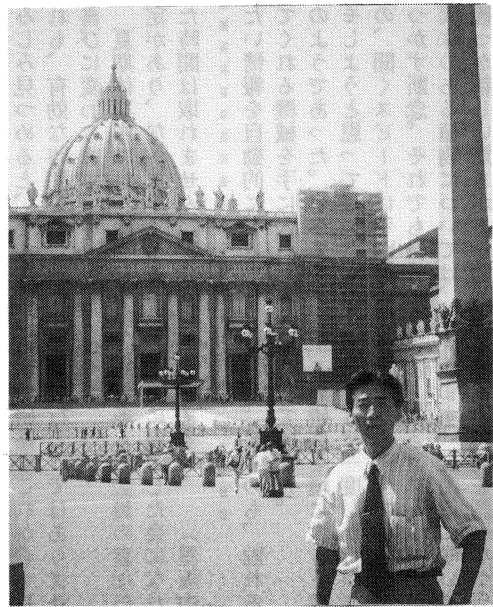
信濃教育会第二十二次ヨーロッパ教育研修の旅に参加する機会をいただき、七月二十八日から八月八日までの十二日間に、イギリス・フランス・オーストリア・イタリアの四カ国を巡りました。これまで三、四泊の国内旅行が最長の旅だったので、県下各地十七名の先生方との人生初の海外での長旅の経験は感動の連続でした。

あえて書くとするれば「石の文化」、「人間の歴史の重さ」、「人々の暮らしと宗教」等々、訪れる人々をひきつけてやまない魅力に心躍らされた旅、と言えるでしょうか。

「感動の連続」 ヨーロッパ教育研修の旅

宮下 芳一

●ローマ(8/5〜8/7)
 数千年の歴史とともに生きる人々の暮らしが宗教との強い結びつきによって築かれてきたこと。「もう一度、来たい。」強い思いをこめて、トレビの泉にコインを投げ入れてローマを後にしました。心洗われるような感動的な研修の機会をありがとうございました。来年はぜひと思われの方、おすすめの旅です。(森上小)



バチカン市国 サン・ピエトロ大聖堂にて

教育会だより

- 7・22 教育七団体結成
- 8・25 教育七団体代表者会
- 8・29 教育会講演会(於須坂市公民館三階ホール)
講師 愛知教育大学教授 有田和正先生
演題 「生きる力を育てる授業のあり方」
- 9・2 谷川彰英先生ご指導(於日野小学校)
特別活動研究委員会
- 9・10 第4回常任委員会
- 10・4 教育研究集会(於相森中学校)
- 10・7 上高井教育会報第175号発行

同好会員のための同好会に

齊藤 澄人

毎年の楽しみである美術同好会主催の裸婦講習会が、墨坂中学校で行われました。これまで、会長である北



今年度は小委員会を作り、私もそれなりのお手伝いをする事ができました。モデルさんの出会いは、いつもワクワクするものですが、今回は特別で、

夏季研修で学んだこと

武内 洋

大学へ進学するため長野を離れ、五年ぶりに郷里に戻ってきて感じる。それは長野県の自然が掛け替えのないものであるということ。長野県に住んでいる時は、この自然のよさが今一つピンと来なかった。当たり前のように私たちの周りには自然に、心動かされることなく普段の生活をしていた。

私が須坂駅までお迎えをすることになり、本当にドキドキワクワクでした。モデルさんは、とても明るく、さっぱりとした感じの方で、いかにも「自由に生きていく」という印象でした。

夏季研修で学んだこと

二日目には、懇親会も行われましたが、そこには、先輩の先生や、長野市で婦人服のお店を経営している方も参加してくださいました。美術についての話はもちろんのこと、経済に関する話あり、本当に楽しく、有意義な懇親会となりました。

四月から中学校の講師になり、徐々にこちらの生活のリズムに体が慣れてきた頃から、私の周りには自然に引かれ始めていた。中学校は鎌田山の麓にある。二階、三階と階が上がるにつれ、見晴らしの良さも登っていく。新緑。芽吹きの季節は日々、山が鮮やかに変わっていく。緑だけがな

気になります。それとは対照的に、休憩時には、お茶を飲みながら歓談したり、作品の批評を仕合うなど、たいへん有意義な時間が過ぎました。そのためもあってか、まる一日の制作は、体力的にも、精神的にもかなりハードで、終了する頃には、ため息も多

のような研修をすることは、美術科の教師として教壇に立つ自分にとっては、絶対に欠くことのできないことと強く実感しました。

く、花の白・桃色・黄色が点々としている。きつと秋には素敵な紅葉が見れるだろうなと思ってしまう。間もなくその秋。梅雨は今年は、来たのかどうか疑問だが、体育館裏では、アジサイが20mに渡り咲いていた。

来年多くの会員の参加のもと、更に充実した会になればと思います。(墨坂中)

夏季研修で学んだこと

(俳文学同好会)

田中 尚子

七月二十七日、俳文学同好会夏季研修を高山村一茶の里で行った。世話係・会長含め五名の参加ではあったが、半日が一日にも感ずる充実した会であった。講師は、今年度新たにSBC社員堤先生をお迎えした。指導から学んだ概要は以下の通りである。

(1)俳句を作る際最も心がけたい事

◎俳句表現でよいこと
驚き・優しさ・ユーモア・発見・省略・リズム

◎俳句表現でさげたいこと
説明・報告・類想・当然・言い過ぎ・付け過ぎ・原因・結果

(2)実際の俳句から(1)を顧みる
作業衣の陽の移り香や秋の夕暮れは
作業衣のひのきの香り秋の夕暮れが適当であろう。他にも秋の星見てゐる自分小さくなる

水を飲むほくを見てゐる赤とんぼ
かげろふや目につきまどふ笑顔など、句を教えていただいて実作に意欲がわいてきた。

(3)実作で気をつけたいこと
◎説明があると創造する楽しみがなくなる
◎付け過ぎも季語を重ねる「季重なり」と似ていて多く使えないこと。

◎一物は、かなりの発見、深み

がないと表現が難しくなる。
(4)作ってみてうまく行かない季語の紹介
仁王、石仏、赤ん坊、孫等。
(5)まず作るときに、心がけていくこと
◎五七か七五でつけて、季語のよい言葉を見出す。
例えば、
白線の上昇するや昇降機
フリーズをかきとめる昇降機
のように書きとめたらどうか。
(6)実際に作ってみる
カナカナと一茶道を固定して中七を変えてみた。

カナカナや誰も通らぬ一茶道
カナカナの声を限りの一茶道
カナカナを友呼び会ふか一茶道
カナカナの声浸みわたる一茶道
堤先生のわかりやすいご指導のおかげで時のたつのも忘れて句作にふけてしまった。

また、一茶の生涯を森山館長先生からお聞き出来てありがたかった。一茶について実作から三句。
三十路して師と認めらる一茶かな
生涯に破草あり一茶伝
一茶道歩めば子らの秋しぐれ
今後私たち同好会は一茶の生涯に学び、研修を続けたい。

(高甫小)

夏季宿泊研修会に参加して

赤沼 陽子

教師になって四ヶ月がたち、あわただしく一学期が終わりました。私は、一日一日が精一杯で、教師としての自分を振り返る余裕がありませんでした。しかし、この研修で、様々な体験をしたり、同志と共に語り合ったりすることで自分を見つめ直し、課題を新たにすることができました。

また、道端の草花

や虫に目を向け、新しい発見ができたり、自然に親しむ楽しさを改めて感じる事ができました。

野外活動では、野外炊飯、キャンプファイヤーやテントの設営を行いました。その中のキャンプファイヤーでは、ゲームをしたり、仲間と夜空の星を眺めながら語り合ったりすることなどで自己を開放し、とても楽しむことができました。また、櫓の組み方やキャンプファイヤーの展開の仕方などを指導していただき、自分たちの手でキャンプファイヤーを作り上げることができました。そして、そこで決

して忘れることのできない感動と喜びを体験しました。今度とは、この感動と喜びを子供たちと一緒に味わいたいと思います。

この研修の四日間はたいへん充実した有意義なものであり、また、仲間と一緒に過ごした楽しいこの時間は、二期への活力となりました。この研修で学んだことを学校へ持ち帰り、今後に活かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、このような研修の機会を設けてくださった方々にお礼申し上げます。(日滝小)

本校の宝⑩ 松籟無限—開校以来の精神—

東中学校

本校の宝とは、何よりも人である。それぞれの学校に生活する生徒や職員の、学校を支えてくださる家庭や地域の人の、心こそ学校の宝である。技術室の南にサクラノボの古木がある。なぜか今年にはよく実をつけた。初夏六月、土曜の午後、部活動の生徒たちががせがむのでサクラノボ採り許す。大樹だけに実を採るのは容易ではない。採ってすぐ食べると思っていると「職員室に持っていったほうがいいよね。」と三年生の男子。自分が食べる前に先生に届けようとするのに感心。

さらに、各々に食べた後のこと、「先生、家に持って帰って父ちゃんや母ちゃんにもあげていいですか。」の一年生の一言にまたびっくり。「本校の生徒は、こんなに優しく暖かな気持ちを持っているのか。」と思わず感動。これこそ本校の第一の宝である。

一階ホールに仏製の古い小さなグラインドピアノが一台ある。外観は傷つき、鍵盤の破損もひどいが、最近調べてもらったところ、「こんなピアノは初めて見た。」を目を輝かせ、分解して入念に調べる調律師。何と今から百年以

上の昔の大変貴重なものだという。このピアノは、郷土出身の故山岸右京氏から本校開校時の昭和三十三年に寄贈されたもの。お金さえ出せば簡単に手に入ることは異なり、中古品でも手に入れることは大変困難な時代である。特にグラインドピアノがある学校は、県下でも極わずかだったという。ところで、学校にとってアルバムや文集も本当に大切な宝である。その中の「右京おじさんへ『あずま』」だより「昭和三十五年一月」と題する開校年度の文集にこのピアノについての記述がある。

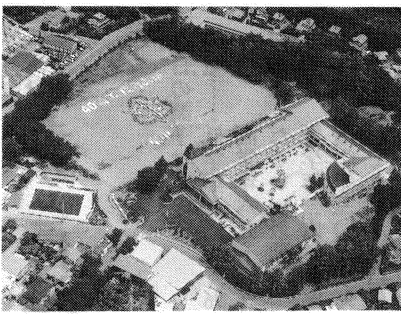
「ピアノ、鉛筆削り、給食のミキサー。私たちはうれしくてたまりません。ピアノは音楽の時間美しい音を出しています。ピアノの上はいつも整理され、ほこりなども見られません。私たちがうんとがんばって勉強します。」

仁礼出身で上京して成功した右京氏からは、その後、旧音楽堂をはじめ本校にたくさんのお金を寄贈していただいたが、同時に、郷土や学校を愛する心、他へ感謝する温かい心という宝をいた

だいのだ。
本校の宝として他に、校歌碑、尊徳像、自立の像、いくつかの書画等があげられるが、それぞれ卒業生や地域の人の心のこもった大切な宝である。最後にもう一つ本校の宝をあげる。豊かな緑、美しい自然環境である。東中の校歌は「緑さやけき生い松にわれらが母校をびえたつ」で始まるが、敷地の東側には、緑石や馬頭観音が残る「米子不動道」の通る松林がある。本年四十周年という節目を迎えた本校は、四年前から始まった改築で校舎は一新したが、昔のままの自然を残す松林は、開校以来、いやそれより以前より生き続けてきた本校の伝統の象徴でもある。

松籟無限(しゅうらいむげん)。松の梢に吹く風は無限。

「自然の精気と文化の調和の中で人間が育つ」という開校以来の精神は、本校のかけがえのない宝としてこれからもずっと大切にされるであろう。



本校の宝とは、何よりも人である。それぞれの学校に生活する生徒や職員の、学校を支えてくださる家庭や地域の人の、心こそ学校の宝である。技術室の南にサクラノボの古木がある。なぜか今年にはよく実をつけた。初夏六月、土曜の午後、部活動の生徒たちががせがむのでサクラノボ採り許す。大樹だけに実を採るのは容易ではない。採ってすぐ食べると思っていると「職員室に持っていったほうがいいよね。」と三年生の男子。自分が食べる前に先生に届けようとするのに感心。

さらに、各々に食べた後のこと、「先生、家に持って帰って父ちゃんや母ちゃんにもあげていいですか。」の一年生の一言にまたびっくり。「本校の生徒は、こんなに優しく暖かな気持ちを持っているのか。」と思わず感動。これこそ本校の第一の宝である。

一階ホールに仏製の古い小さなグラインドピアノが一台ある。外観は傷つき、鍵盤の破損もひどいが、最近調べてもらったところ、「こんなピアノは初めて見た。」を目を輝かせ、分解して入念に調べる調律師。何と今から百年以

上の昔の大変貴重なものだという。このピアノは、郷土出身の故山岸右京氏から本校開校時の昭和三十三年に寄贈されたもの。お金さえ出せば簡単に手に入ることは異なり、中古品でも手に入れることは大変困難な時代である。特にグラインドピアノがある学校は、県下でも極わずかだったという。ところで、学校にとってアルバムや文集も本当に大切な宝である。その中の「右京おじさんへ『あずま』」だより「昭和三十五年一月」と題する開校年度の文集にこのピアノについての記述がある。

「ピアノ、鉛筆削り、給食のミキサー。私たちはうれしくてたまりません。ピアノは音楽の時間美しい音を出しています。ピアノの上はいつも整理され、ほこりなども見られません。私たちがうんとがんばって勉強します。」

仁礼出身で上京して成功した右京氏からは、その後、旧音楽堂をはじめ本校にたくさんのお金を寄贈していただいたが、同時に、郷土や学校を愛する心、他へ感謝する温かい心という宝をいた

火ばち談義



日滝小 齊藤

わたしの時間

山浦 あつ子

私は、この四月から小布施
 中学で勤務しています。一学
 期は、あっとい間に過ぎて
 しまい、夏休みになってやっ
 と少し『自分の時間』が持て
 るようになり、現在は文化祭
 のことで、学校中忙しくなっ
 ています。

『自分のためだけに使える
 時間』そんな時間が、欲しく
 なり何ができるかなとふと考
 えてみた。大学時代に、授業
 で書道を履修し、最後に卒業
 作品を書き、きちんと掛け軸
 になった自分の作品を見て、
 感激したことを今でも憶えて
 います。

そこで、掛け軸にする作品
 を書くとするば、書道教室に
 でも通わなければと考えると、
 今の私自身の毎日からは、と
 も考えられません。もっと
 コンパクトで書道が書けるも
 のはないかと考えてみると
 「短歌、俳句それに川柳。こ
 ういうのは、少々……。」

そう思ったとき、思い出し
 たのは高校卒業のとき皆勤賞
 として校長先生からいただいた

た色紙です。そこには、「花
 は美しいのは 花がほほえん
 でいるから やさしく 語り
 かける華」と左右に分けて書
 かれ、真ん中にピンクのナデ
 シコの花が描かれていて、何
 ともし日本らしい雰囲気と、校
 長先生の人柄が、そこにはあ
 りました。その時は、その程
 度に思っていました。今の
 私の時間をどう使おうかと、
 思ったとき「水墨画」もいい
 かなと思っています。

自分らしい文(詩)と、ち
 よっとした絵を描いて、人に
 贈る。(誰も貰ってくれない
 かもしれませんが)

そこで、通信教育でやるこ
 とに決め、自分の好きな時間
 に好きなだけできるところか
 ら、今、NHK学園の通信教
 育で、楽しみながら入門編か
 らやっているところです。

(小布施中)

スッキリと目覚めていますか？

江村 美保

今日の調子は？

元気……低学年七三・一%

何となくだるい・最悪

低学年二六・九%

高学年三〇・七%

自立起床ができたか(自分

から目覚められたか)

はい……低学年七〇・八%

高学年五九・五%

これは二期の初日の各ク

ラスの朝の健康観察の様子を

まとめたものの一部である。

「さあ、二期だ(がんば

るぞ!)」とあって、二期の

スタート切った児童が、全校

の約七割。逆に「あくあ二期

期か……」と思った児童は約

三割。確かに夏休みが終わっ

ても、連日三十度を超える残

暑が続き、テレビの全国版で

は「夏休みも残すところ、あ

と十日」なんていうのを聞く

と、(長野県の夏休みは短す

ぎる)と、テレビに向かって
 吠えていたのは、私だけでは
 ないと思う。

その未練がましさと、二期

期の始まりに対する複雑な思

いから、快い睡眠が得られず

従って朝もスッキリ目覚める

ことができなかった。と、自

分の二期初日を思い返して

みたが、朝スッキリ起きられ

るかどうかは、一日のスター

トに大きく影響するように思

う。

そこで気持ちよく、自分か

ら目覚めるためにはどうした

らよいか。まずはぐっすり眠

り、脳や体の疲れをしっかり

よ。」私は心の中で「そんな

で言うこと聞くくらいなら苦勞

しねえや。第一どうにもこうに

もならなかったからじゃねえか

ああこんなこと話すんじやなか

った。」と思いつく日は帰りま

した。

翌日は小運動会準備で全く忘

れていた放課後、再び現れたR

子さん、私をさかんにあだ名で

呼びます。閉口していると「先

生今日謝らなかつたでしょ。謝

らないと先生と読んであげな

い。」これにはちょっと腹が立

って「いじめたんじゃないかと

言うことを聞かないからしたん

でしょ。言うことを聞かない人

がいけないんじゃないの。」ど

うだこんやろと思っていると

少しして「ううん、げんこつは

一番いけないの。先生はよくげ

んこつだぞって言うでしょ。あ

あいうこと、言っちゃいけない

取ること。そして眠りが浅く

なったところで、カーテンか

ら差し込む朝日により、自然

に目覚められる。

はずなのだが、心配事や何

か気になることがあると、寝

つきが悪くなり、ぐっすり眠

ることができない。当然目覚

めも悪くなる。

たかが目覚めの善し悪しな

のだが、熟睡できず目覚めの

悪い子には、何か心の問題が

ないかどうか探る手掛かりに

なるのではないだろうか。

(井上小)

んだよ。だから先生は謝りなさ

い。」……

小山小一年西組でした。

(豊洲小)

編集後記

朝晩はめっきり涼しくなり、
 秋本番を感じさせる頃となり
 ました。皆様も運動会などの
 行事を終え、ほっと一息とい
 うところでしょうか。

さて今回の教育会報は、会
 員の皆様の夏休み中の研修報
 告を中心にして編集させてい
 ただきました。暑かった今年
 の夏にまさるほど熱意意気込
 みがひしひしと伝わってくる
 ような研修報告でした。

お忙しい中、原稿をお寄せ
 くださった皆様、本当にあり
 がとうございました。

(担当 佐藤・長井)